

文化論集第64号
2025年6月

消 息

荒井訓先生のご定年退職にあたって

荒井訓先生はめでたく古稀を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年3月末日をもって退職されました。また、早稲田大学における教育および研究上の功績により、4月1日付で名誉教授の称号が贈呈されました。先生のご退職にあたって、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

荒井先生は1954年9月生まれで、1978年3月早稲田大学第一文学部ドイツ文学専攻をご卒業ののち、同大学大学院文学研究科博士前期課程および博士後期課程においてもドイツ文学を専攻されました。早稲田大学高等学院非常勤講師（1982年4月から1988年3月）、日本大学芸術学部非常勤講師（1983年4月から1988年3月）、国立東京工業高等専門学校非常勤講師（1984年4月から1988年3月）、早稲田大学第二文学部および横浜国立大学教育学部非常勤講師（1987年4月から1988年3月）を経て、1988年4月東北大学教養部専任講師に嘱任されました。その後、91年に助教授（1993年4月から改組によって言語文化学部）に昇任され、早稲田大学商学部には1998年4月助教授として着任され、2005年4月教授に昇任されました。商学部においては27年の永きにわたって教育と研究の時間を過ごされました。

先生のご担当科目はドイツ語ですが、ドイツ文化やドイツ社会を研究対象として多くの著書や論文を執筆されました。とくに、ご退職前の昨年12月に出版された『超解読！ はじめてのフッサール「イデーン」』は、荒井先生曰く「あこがれの竹田青嗣先生」とのドイツ哲学研究を通じた共同作業の結実であり、現象学をわかりやすく解説した力作です。先生ご自身、このご著書を早稲田大学における最後の業績として出版できたことを殊の外喜んでおられました。ドイツ語教育に関しては、『使えるドイツ語会話』（2012年5月）などのテキストに加えて、NHK ラジオドイツ語講座講師（2001年4月から2023年3月）を長年にわたってご担当されるなど定評のある外国語教育を実践されました。先生が担当される授業では受講生にドイツパンを配られ、実際にドイツ文化に触

れる機会を設けるなどの工夫もされています。厳しいながらも思いやりのある先生のもとで学んだ学生にとって良き思い出になっていることでしょう。この他、東北大学在職中に国際交流基金海外専門調査員（1993年8月から1996年3月、ケルン日本文化会館での研究調査）、公益財団法人ドイツ語学文学振興会常務理事（2007年6月から2024年5月）を歴任されました。研究・教育にかかわる詳しい紹介は長谷川恵一先生による消息をご覧ください。

学内において先生は種々の役職を歴任され、大学や学部に対する貢献も大きかったといえます。まず、恩蔵直人学部長のもとで学生担当教務副主任（2010年9月から2012年9月）を務められ、同教務主任の長谷川恵一先生との連携によって学生問題への対応に当たられました。次に、嶋村和恵学部長のもとでも学生担当教務主任（2014年9月から2016年9月）をお務めになり、同副主任の田口尚志先生と学生案件に取り組みました。メンタル面で問題を抱える学生が多くなり、個々の学生に丁寧に対応されていたことが記憶に残っています。さらに、藤田誠学部長のもとでは入試担当教務主任（2016年9月から2020年9月）を2期にわたって務められました。当時は入試制度の変更など学部にとって転換期に当たるわけですが、多くの先生方の意見を取り入れて成案を得るといふ調整はご苦労があったものと思います。先生の入試担当教務主任時には私も教務担当教務主任として2年間（2016年9月から2018年9月）ご一緒しました。この間、最愛の奥様を亡くされ、先生の落胆ぶりを間近で見ながら気の利いたことを申し上げることができなかつたことを思い出しています。「悲しみを忘れるには仕事をするしかない」という乱暴な物言いをしてしまい、その後、先生はグローバルエデュケーションセンター教務主任（2020年9月から2022年9月）、同副所長（2022年9月から2025年3月）に転じられ、ご退職直前までご負担を掛けることとなりました。たいへん申し訳ない気持ちでおります。学部長としての私に対しては、外国語のカリキュラム改編においてさまざまなアドバイスをいただいたり、また、外国語を担当される先生方の意見をまとめていただいたりと側面からご支援をいただきました。とても感謝しております。

いまはお孫さんの成長を見守る良きお祖父ちゃんとしての日々を楽しみつつ、エクステンションセンターでドイツ語の授業を担当されています。受講者の年齢層はやや高くなりますが、教えることに生きがいを感じる先生にとってはこれも楽しみの一つになる

ことでしょう。また、ご自身へのご褒美として世界一周旅行を計画されているそうです。旧友との再会が楽しみであるとうかがいました。エクステンションセンターで授業のある日には学内でお目に掛かる機会もあるかと思います。話題豊富な先生とお会いすることを心待ちにしています。これからも充実した日々を送られることを願ってやみません。

先生の早稲田大学とりわけ商学部に対するご貢献に心から感謝を申し上げますとともに、いつまでもご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。

荒井先生、長きにわたり、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会長
横山 将義